より良い環境を次の世代へ

環境基本計画①「目標とする姿」

市では、昨年「豊岡市環境基本計画」を策定しました。この計画を策定した目的は、人とコウノトリが共生できる良好な環境を保存、再生、創造し、その素晴らしい環境を広げ、次の世代に引き継いでいくためです。この内容について、今月号からシリーズでお知らせします。今回は、「目標とする姿」について説明します。

《問合せ》コウノトリ共生課環境政策係

計画の位置付け

環境基本計画は、平成19年4月に施行した「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づいて、環境の保全に関する基本的な計画として策定しました。

また、豊岡市総合計画（基本構想）に掲げたまちの将来像「コウノトリ悠然と舞うふるさと」を、環境の面から実現するための計画としても位置付けています。

計画の期間は10年間で、平成28年度を目標年度としています。

▲百合（ゆえじ）地区の人工巣塔付近でコウノトリ育む農法に取組む農家（写真提供：ＪＡたじま）

▲計画書冊子版

目標とする姿

計画では、まず10年後を目標とする具体的な姿をイメージしています。

この目標像を実現するため、市民や事業者の皆さんと市が協力しながら、環境への取組みを進めていきます。

①里山では山の幸もよみがえりました

山に植林するときには、針葉樹だけでなく広葉樹も植えています。

植林された杉や桧が適切に管理され、災害防止や保水能力など、森林の多面的な機能が維持されています。

間伐材は、木質バイオマスでも有効利用されています。

市民の皆さんが、里山など身近な自然と親しむ機会が多くなり、森林ボランティアに参加する人も増えています。

里山などの森が適切に管理され、気軽に山に入り、山菜採りやキノコ狩りも楽しめるようになります。

山に広葉樹が増えたことで、動物の餌となる木の実も増え、シカやイノシシによる農作物の被害も減っています。

▲手入れされた里山（長谷区）

②遊んでいる田んぼを見かけなくなりました

農薬や化学肥料に頼らないコウノトリを育む農法などの環境創造型農業が広がっています。

学校給食や家庭の食卓には、豊岡産の安全・安心な農産物がよく並ぶようになりました。

豊岡産の安全・安心な農産物がよく売れるようになり、農業を続ける人が増え、また新たに就農する人も出てきています。

▲山間棚田で農業が続けられている（小河江区）

農地が、さまざまな形で使われて、耕作困難な田んぼがビオトープ水田になっています。

転作田には、菜種が植えられて天ぷら油になり、その廃油からバイオディーゼル燃料も作られています。

③あちこちの川で子どもたちが遊んでいます

地域の皆さんの協力で、川岸の草刈りや空き缶などのごみ拾いが行われています。

きれいになった川を見て、豊岡を訪れた人も、川や道路沿いにポイ捨てしないという意識が高まり、川沿いのごみ

は少なくなります。

また、生活排水や農薬で川の水が汚れなくなり、多くの生きものが生息しています。

きれいになった川では、子どもたちが元気に魚を取ったり、水遊びをする姿がよく見かけられます。

▲竹野川沿いのごみ拾いをする子どもたち

④ごみのない海辺では、子どもたちが「磯遊び」を楽しんでいます

誰もが、ポイ捨てや不法投棄をしなくなり、ごみをきちんと処理するようになったので、川から海に流れ、海辺に漂着するごみは少なくなります。

海辺はきれいに保たれ、子どもたちが元気に砂遊びや磯遊びを楽しんでいます。

⑤子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます

豊岡の自然に抱かれた暮らしの中から生まれた地域の祭りや伝統行事が、大人から子どもに受け継がれています。

地域の祭りに参加する人も増え、大人も子どもも祭りを楽しんでいます。

季節ごとにある年中行事の習わしも、家庭の中で子どもたちに伝えられています。

それぞれの地域の文化や歴史が大切にされ、それを誰もが誇りに感じています。

⑥コウノトリがすべての中学校区に住んでいます

コウノトリ育む農法の田んぼやビオトープ水田、市民に守られた湿地が、市内に広がっています。

田んぼに餌となる生きものが増え、コウノトリが市内の至るところに飛来し、コウノトリの生息地が広がっています。

コウノトリが舞い降りることが、地域の誇りになり、さらに、コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みが定着しています。

⑦収集されるごみの量は、ピーク時（平成12年度）に比べ25％減りました

家庭でのごみ分別が徹底されて、資源ごみも適切にリサイクルされています。

▲空き缶・ペットボトル回収機

買物にはマイバックを持参し、レジ袋は使いません。誰もが日常生活を見直し、資源の無駄使いをしていません。

その結果、収集されるごみの量は、平成12年度のピーク時に比べて、25％も減っています。

また、廃食用油からバイオディーゼル燃料を作ったりして、資源ごみやバイオマスエネルギーを地域内で循環・リサイクルする取組みが広がっています。

事業所でも、廃棄物の減量化・再資源化の取組みが進められています。

⑧子どもが安心して道草をしながら帰ります

地域でお互いが協力し合い、自分たちの住むところの環境を良くする取組みが広がっています。

子どもたちの通学路には、道端で花が咲いたり、バッタが跳ねたり、水路では小魚も泳いでいます。

子どもたちは、学校や地域の中で、生きものや自然のことを学び、さまざまな体験活動をして、学校帰りには、よく道草をしています。

通学路の途中では、地域の人たちが、商売や農作業をしながら、子どもたちを見守っています。

⑨たくさんの豊岡ブランドが生まれ、市民みんなが使っています

コウノトリ育む農法のお米や、かばん・ちりめんなど、豊岡の風土に育まれ、磨き上げられた地域ブランドがたくさん生まれています。

作り手のこだわりと地域らしさを生かした商品は、市内外からも高く評価されています。

▲地域ブランド「豊岡鞄」

市民の皆さんも、地元で生産された物に、安全・安心さを感じて購入しています。

⑩市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます

二酸化炭素の排出を削減し、地球温暖化を防止しようという市民の意識が高まり、石油の消費を「ちょっとでも」減らそうとする行動が広がっています。

家庭や学校、職場では「もったいない」からと冷暖房を弱め、テレビなど使っていない電気器具の主電源を切ります。

大人も子どもも、省エネルギー行動が当たり前となり、エネルギーを無駄使いしたら、恥ずかしく感じられます。

市内には、太陽光発電パネルを設置する住宅が増えています。

ハイブリッド自動車を購入したり、アイドリングストップなどのエコドライブを実践する人も増えています。

10年後には、①～⑩のような「まちの姿」になることを目指します。

※計画書（冊子）は、コウノトリ共生課および図書館本館、各分館で閲覧できます。